

第1学年 体育科学習指導案

い組 男子17名 女子18名 計35名

指導者 當房 省吾

1 単元 いろいろなうごきをつくるうんどうあそび

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、新しく出会った多くの友達と校庭や遊具で遊ぶ中で、体を動かす楽しさを味わったり、きまりを守って、友達と仲よく運動することの大切さを経験したりしている。そして、「いろいろな遊びをしてみたい」などの願いをもっている。

そこで、ここでは、体を移動する動きや体のバランスを保つ動き、用具を操作する動きなどで楽しく遊ばせる中で、基本的な動きを高め、体を動かす心地よさを味わっていく学習である。また、友達の動きを見たり動きを工夫したりする活動を通して、「もっと友達の動きをまねしたい」「もっと工夫してみたい」という思いを連続・発展させ、友達の動きのよさに気付かせまねをしたり、よりよい動きに挑戦したりしてできる動きが増えていく楽しさを味わわせ、深めようとするものである。

この学習で経験した、体を移動させる動き・バランスを保つ動き・用具を操作する動きは、第1学年「いろいろなうごきをつくるうんどうあそび」の押す・引くなどといった力試しの動きやバランスを保つ動きの運動遊び、チームでの競争遊びへと発展する。また、器械・器具を使った運動遊びのバランスをとって転がる動きや走・跳の運動遊びの調子よく走る動き等、各運動の動きへと発展する。

(2) 指導の基本的な立場

「多様な動きをつくる運動遊び」の楽しさは、体のバランスや移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きなどで遊ぶ中で、いろいろな動きが増えていくところにある。また、友達のよいところを見つけてまねをしたり、動きを工夫したりする活動を通して、のびのびと体を動かす心地よさや多様な動きを身に付ける楽しさが深まっていく。

第1学年の「いろいろなうごきをつくるうんどうあそび」では、「友達と楽しく遊んでみたい」「思い切り体を動かしたい」という願いを基に、多様な運動遊びをする中で、体の基本的な動きを身に付けていく学習である。また、友達のよい動きを見付け、それらをまねたり、新しい運動遊びに挑戦したりすることで、全員で楽しみながら動く楽しさを感じるようになる。

この「いろいろなうごきをつくるうんどうあそび」の楽しさを味わわせるためには、易しく取り組める運動遊びの行い方や動き方を知り、条件を変えたり、複数の活動を取り入れたりしながら、多様な運動遊びを行い、基礎となる動きを身に付けさせる。そして、体全身の動きに着目させながら友達の動きのよさを見付けたり、できるようになった動きを紹介しまねし合ったりさせる。

そこで、この学習の展開としては、目指す動きの動くイメージをつかませるために、動き方が分かる絵図や示範、映像などを活用し、視覚的に分かるように工夫する。そして、易しい動きに挑戦させ、「もっと動いて楽しみたい」「もっと遊びたい」という思いをもたせる。また、単元を通して、友達のよい動きを取り上げ、その場で動いて試したりまねさせたりすることで動きを高めさせる。その後、高まった動きを活用しながら姿勢・方向などの観点で動きを工夫している子どもの動きを取り上げ、価値付けたり、全身による身体表現で伝え合ったりさせる。さらに、様々な条件を変えながら自分がやりたい遊びを工夫させていく。単元の前半では、動物歩きやボール投げ遊びなどをしたりしながら、体を移動する動きやボールを投げる・捕る・運ぶなどの動きを高める。単元の後半では、バランスを保って立つ・歩く遊びやバランスを崩す遊びをしたり、フープ遊びをしたりしながら、バランスを保つ動きや用具をくぐる・回す・転がすなどの動きを高める。最後にできるようになった動きをみんなに紹介する場を設定し、友達の動きのよさを全体で話し合わせたり、なぜ

できるようになったのか発表させたりし、お互いの動きの高まりを認め合わせるようにする。

この学習を通して、できる動きが増えていく楽しさや友達の動きのよさを見つけたり、自分なりに動きを工夫したりする楽しさを味わい、体づくりの運動と他の運動とのかかわりをより一層深め、運動に挑戦し続けることができるようにする。

(3) 子どもの実態（調査人数35名、調査結果は主な項のみ表掲）

① 体を動かして遊ぶことに対する興味・関心

好き	35名	○体を動かすことが好き(14名) ○遊具で遊ぶことが好き(14名) ○友達と一緒に遊べるから(8名) ○元気になる(7名) ○いろいろな動きがうまくなる(3名)
----	-----	---

② 好きな運動遊びの種類(複数回答)

○遊具遊び(34人) ○鬼ごっこ(23人) ○ボール投げ(17人) ○長縄(19人) ○かけっこ(16人) ○一輪車(14人) ○バドミントン(12人) ○短縄(12人) ○ボールけり(9人)

③ 外遊びの習慣

よくする(10人)	たまにする(4名)	しない(21名)
-----------	-----------	----------

④ 習い事での運動経験とその種類

している	17人	○スイミング(13人) ○サッカー(2名) ○野球(2名)
------	-----	-------------------------------

⑤ 学習のめあて(複数回答)

○動きができるようになるために練習をしたい(33名) ○いろいろな動きをして遊びたい(32名) ○たくさん運動したい(30名) ○新しい動きができるようになりたい(29名)

⑥ 動きのコツの見つけ方について(複数回答)

○一生懸命に取り組む(15人) ○毎日たくさん動く(10人) ○できる人のまねをする(10人) ○知っている人に教えてもらう(9人) ○お手本の動きをよく見る(8人) ○分からない(8人)

⑦ 動きについて※()内の数字はできた人数

体を移動する動き	・クマ歩き(35名) ・うさぎ跳び(26名) ・クモ歩き(12名) ・手押し車(20名) ・半回転ジャンプ(34名) ・1回転ジャンプ(29名)
体のバランスをとる動き	・かかしバランス(35名) ・ひこうきバランス(29名) ・たつまき(22名)
用具を操作する動き	・上に投げて捕球する(35名) ・手をたたいて捕球する(28名) ・座って捕球する(26名) ・床にタッチしてボールを捕る(23名) ・フープを回す(腰…26名, 腕…17名) ・フープを転がす(28名)

本学級の子どもたちは、①の興味・関心については「体を動かすことが好き」「遊具で遊ぶことが好き」等の理由から、全ての子どもが体を動かして遊ぶことに興味をもっている。これは、これまでに体を動かして遊ぶ楽しさや心地よさを味わってきているからだと考え。

②の好きな運動遊びの種類について、多くの子どもたちが、「遊具遊び」「鬼ごっこ」「ボール遊び」など全身を使って友達と一緒にできる遊びを好きな子どもが多い。これは、これまでの遊びの経験から友達と体いっぱい使って遊ぶ楽しさを感じているからだと考え。

③、④の運動習慣や運動経験から、体全身を使い継続的に運動遊びを経験している子どもが少ない。これは、運動する習慣がある子どもとそうでない子どもがいることや習い事など決まった運動経験はあるが、体全身を使って遊ぶ機会や環境が少なくなっているからだと考え。

⑤のめあてについては、たくさん遊ぶ中でいろいろな動きができるようになりたいというめあてが多い。これは、これまでにできるようになる楽しさやいろいろな遊びを通して体を動かすおもしろさを味わった経験があるからだと考え。

⑥の動きのコツの見つけ方については、たくさん体を動かすことだけではなく、中には動きをよく見たり、まねをしたりすることに気付いている子どももいる。しかし、一方で、「分からない」と答える子どももいる。これは、これまでに友達のよい動きを見たり、自分の動きを工夫したりするよさに気付いていないからだと考え。

⑦の技能について、体の移動する動きでは、体をあおむけにして両手両足で体を支えながら移動するクモ歩きが苦手な子どもが多い。バランスをとる動きでは、片足を軸にして一回転するたつまきや片足バランス(飛行機ポーズでの静止)などが苦手な子どもが多い。また、用具を操作する動きでは、フープを腕や腰で回したり、転がして渡したりする動きが苦手な子どもが多い。これは、体全身を使った遊びの経験が少なく、基本的な動きが身に付いていないからだと考え。

5 本 時 (3 / 6)

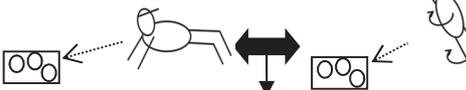
(1) 目 標

「友達のよい動きを見付けたい」「いろいろな動きができるようになりたい」などの願いをもち、体を移動したりボールを操作したりする運動遊びに挑戦する中で、友達の動きのよさや工夫を見付け、いろいろな姿勢、向きになって移動する動きやボールを捕る動きができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、思考の高まりを目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、動きを工夫して遊んでいる子ども同士の動きを比べながら、「どんな動きがおもしろいと感じるか」「今まで遊んできた動きからどんなところが変わっているか」と問うことで、動きを工夫よさに気付かせ、出てきた工夫点（姿勢、方向、リズムなど）を価値付ける。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的なたらしかけ
つかむ・見通す ↓ 挑戦する・工夫する ↓ 生かす	1 準備運動 ○附属体操 ○手首、足首、首	(分) ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動きづくりの基礎となる身体能力の要素を高めるために、附属体操をする。 ○ 本時の運動をする際に、負担のかかる手首や肩、膝などを中心に準備運動を行わせる。また、動く感覚を身に付けさせるために、うさぎ跳びやクモ歩きを取り入れたジャンケン遊びをする。 ○ 前時の学習を基に運動遊びを始めることができるようにするために、前時のまとめを振り返り、動きを工夫しながら宝運びをすることを確かめる。 ○ 動きを工夫するよさに気付かせるために、動きを工夫して遊んでいる子ども同士の動きを比べながら、「どんな動きがおもしろいと感じるか」「今まで遊んできた動きからどんなところが変わっているか」と問い、姿勢や方向などの工夫点を価値付ける。 ○ めあてを明確にするために、体の動かし方が分かる絵図などを見せながらどのような動きができるようになりたいか問う。 ○ 動き方が分かるようにするために、絵図を提示したり、教師が示範したりするなど動き方を確かめながら運動遊びをする。 ○ よい動き方に気付かせるために、友達の動きを見合う場を設定する。その際、動き方のよさに具体的に気付かせるために、投げて捕るときの目線に着目させながらボールをしっかりと見てかまえる動きのよさを問いかける。 ○ 工夫して運動遊びに取り組むことができるようにするために、友達のよい動きをまねしている子どもを積極的に称賛する。 ○ 友達と一緒に動きを工夫するよさに気付かせるために、友達のよい動きをまねして取り組んだ感想を交流する。 ○ 次時への活動へ意欲をもたせるために、自分ができるようになった動きを体全身で伝え合わせ、取組を価値付けたりする。
	2 感覚づくりの運動遊び ○へんしんじゃんけん	1 0	
	 <p>あざらし → くま → うさぎ → くも → 人間</p>	↓	
	4 宝運び遊びをする。	1 5	
	 <p>〇〇くんの動きのどこがおもしろいかな。今までの動きからどんなところが変わっているかな。</p> <p>いろいろな姿勢になって動いているところがおもしろいな。</p>	↓	
	4 本時のめあてについて話し合う。 よいうごきを見つけながら、ボールをなげてとるあそびにちょうせんしよう。	5	
	5 ボールを使った遊びをする。 ○ボール投げ上げキャッチ ・手をたいて ・くると回って ・座って ・座りながら回って	1 0	
 <p>上手に捕ることができているのはどうしてかな。</p> <p>最後はボールをよく見て素早く捕る姿勢になれば、しっかり捕まえられそうだな。</p>	↓		
6 整理運動をする	↓		
7 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。	5		
<p>〇〇くんのように、最後にボールをしっかりと見て、ボールを捕る姿勢になれば上手にできたぞ。</p> <p>次の時間はもっと動きを工夫してみたいな。</p>	↓		